



## 胃がん検診について ～問診内容が変わります～

胃がん検診での問診内容が、2016年4月から変わります。  
今回は、新しくなる問診内容や、胃がん検診についてお伝えします。



### 胃がん検診の問診、どう変わる？

ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の除菌療法について、下記のように問診内容が追加になります。

ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の除菌療法を受けられましたか？

はい		いいえ		わからない
----	--	-----	--	-------

「はい」を選択した方は記入してください  
成功    不成功    不明

### なぜ、問診が追加になるの？

ピロリ菌の除菌治療を実施すると、感染に起因する慢性炎症は劇的に改善します。しかし、除菌前までに存在していた胃がんの発生リスクが改善されるわけではありません。このため、除菌治療後も胃がんの発生する可能性は残るのです。さらに見かけ上、慢性炎症が改善されているため、僅かな粘膜の変化に気づきにくい状態になっており、撮影者及び読影医師に除菌治療をしたことを伝え、より慎重に検査をする必要があります。近年、除菌療法が慢性炎症でも保険適応となったために、今後対象者が増えてくることが予想されますので、今回問診票の変更を行いました。



### 胃がん検診について

最近、がん検診の対象年齢や実施方法などについて、見直しをする話題を耳にされたことがあるのではないのでしょうか？胃がん検診についての動向をご説明します。

#### がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針

	従来	新たな提言	新たな提言の背景	経過措置
対象者	40歳以上	50歳以上	昭和58年の胃がん検診導入時より、胃がんの罹患率、死亡率が40歳代で特に著名に減少し続けている。対象を50歳以上にすると比べて、40歳以上では利益が小さく、不利益が大きいと判断。	胃エックス線検査については、「当分の間、40歳以上、1年間隔としても差し支えない」
間隔	1年	2年に一度	胃エックス線検査の効果：1年間隔が最も明らかではあるが、3年以内の受診があれば効果があると示唆。しかし、胃内視鏡と胃エックス線検査で検診間隔を同一にすべきという検討会での議論で決定。	
検査方法	胃エックス線検査	胃エックス線検査 又は 胃内視鏡検査	胃内視鏡検査は、死亡率減少効果の科学的根拠があると判断。	

厚生労働省健康局長通知別添 平成28年2月4日一部改正

上記指針を参考に、現在、鳥取県独自の検診体制を検討中です！

<裏面もご覧ください>

# 胃がん検診を受けよう！



## 【胃エックス線検査の流れ】

- ①技師によるバリウム問診チェック
- ②発泡剤とバリウムを飲む
- ③体の方向を変えながら、X線写真を撮る



- ④口をすすぎ、下剤を飲む  
※検査終了後の日は、いつもより多めに水分を摂ってください。

技師の指示に合わせて体の向きを変えてください。撮影台も動きます。



## 【胃内視鏡検査の流れ】

- ①看護師・技師による問診チェックと検査の流れの説明



- ②胃の中をきれいにするための水薬（100cc）を飲み、ベッドで仰向けになり、右回りで2回転する

- ③ベッドに寝たまま、のどの麻酔をするためのゼリー状の麻酔薬（5cc）をのどの奥に3分ため、起き上がって飲み込む  
\*麻酔の前に、入れ歯はとっておく

- ④検査室のベッドに、左側が下になるように寝転がり、「く」の字になる  
右手は腰の方向に伸ばし、左手は右脇の下へ入れる



- ⑤マウスピースを口にくわえ、内視鏡を飲み込んでいく  
この時、内視鏡を噛んだり手で持ったりしないでください



- \*全身の力を抜き、鼻からゆっくり浅い呼吸をすると楽に検査ができる
- \*空気を入れ胃を膨らませるため、なるべく「げっぷ」をしないよう、出そうな時は2~3秒息を止めて意識すると、止まることが多い

- ⑥医師からの結果説明

- ⑦看護師、検査技師から検査後の注意事項の説明  
\*検査室を出てすぐの椅子でお待ちください



終了です。お疲れさまでした！